

## 4 会話や行動が場の雰囲気合わないD男(4年生)

### 学習・行動上の特徴

気分のむらが大きく、“こだわり”や“自分の思い”が強すぎて、会話や行動が場の雰囲気に合わない。

漢字や言葉に関心を持ち始めているが、言葉の意味を正しく理解しないままに覚え使うことがある。

助詞の読み違いや会話の中での使い方がおかしい時がある。また、能動と受動(れる・られる)の使い方が反対になることがある。

不器用で、器具の使用が苦手である。

低学年の時は、授業中座れずフラフラしたり、教師に抱き付いたりしていた。また一人遊びも多かった。

### 特徴の考察

「聞く・話す・読む・書く」という広範な言語活動は、人間の営む活動の中の基礎的・中心的な役割を果たしている。また、自らの行動を統制・統御したり、他者との情緒的な結びつきをはぐくんだりする手段としても機能している。

本児の場合、聴覚認知<sup>9</sup>の課題から言語活動に困難が生じ、これらのような事象が現れているものと考えられる。

母子関係や人とのかかわり、社会性全般の習得などの弱さがあると思われる。

### 援助・指導の方針

本児は、包括性LD<sup>10</sup>ではないかと考えられ、運動のぎこちなさや対人関係の状況認知、注意集中に課題がある。

聴覚認知の課題から、言語操作・知識習得に支障をもたらし、本児の学習や生活面での課題に繋がっているのではないかと考えられる。本児の状態に合わせて多様な経験をさせ、言語表現を豊かにしていきたい。

転導性<sup>11</sup>が高く、手先(微細運動)の不器用さもみられる。常に何をするのかを理解させ、やり通すことによって自信をもたせたい。

社会的スキル全般の弱さについては、ロールプレイや身体表現活動で、調整力をつけていきたい。

### 留意点

本児は、自分ができないことに対しての深い劣等感・絶望感を言葉に表すこともある。援助・指導の前提として、まず信頼関係を結び、何でも話せることを基本として本児の援助・指導を行う必要がある。

特に気になること以外は、途中で質問や注意をせず、自分が話したいように話させる。そして、表現させることによって情緒の安定を図りたい。

学級担任との連携を図り、本児の学級内での不適応状況を減らす。

## 援助・指導例

(指導担当) 通級指導教室担当

(指導形態) 個別指導 週2回

### ア ねらい

物事に集中して取り組むことができるようにする。

多様な経験をさせ、言語活動の改善を図る。

社会性や運動能力の向上を図る。

### イ 内容

#### 注意集中

絵カードで活動内容を知らせ、自分で決めさせることによって活動への見通しをもたせる。また、本児が興味をもつことを内容に取り入れる。

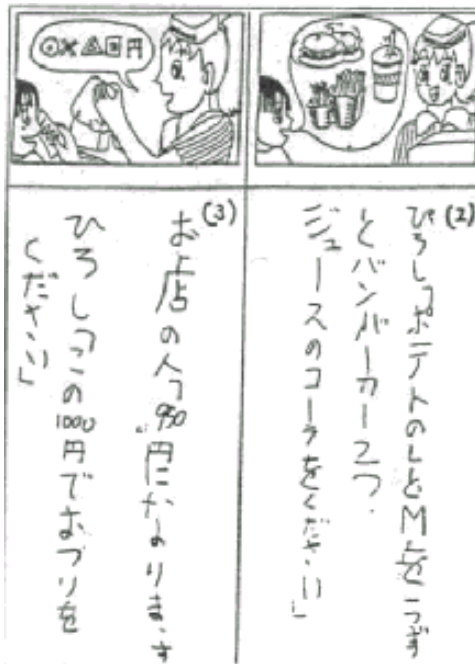
#### 言語

【一言日記・配列絵カードの説明〔左図〕・文に対応した絵カードの選択・4コマ漫画でのお話作り】

【読み聞かせ・読書・音読・暗唱(詩)・聴写・視写・読解練習(教科書・プリント使用)】

【ことばのきまり】 助詞の使い方・問いかけなどの基本文型・能動と受動などの練習

【ゲーム】 スリーヒントゲーム・しりとり・かるた・連想ゲーム・ことばのビンゴ・すごろく・なぞなぞ・ぐるぐるしりとりカード・覚えてしりとりなど



#### コミュニケーション・運動

【ロールプレイ】 友達との遊びや、約束をする場面を設定して経験させ、社会的スキルを養う。

【エアホッケー・ぐらぐらゲーム・コイン入れ・ペグさし・道づくりゲーム・紙工作】 器用さを養う。

【縄跳び・けんぱ・トランポリン・サーキットゲームなど】 身体感覚を養う。

## 指導後の変化及び考察

### ア 変化

座って話を聞く時間が次第に長くなり、自分がやりたくない課題であっても、最後まで取り組んでみようとする姿勢が出てきた。指導者が一緒に体を動かさず中で、物や行動に言葉を添えたり、気持ちを伝えていくことにより、言葉の意味や生活場面での行動の意味が、少しずつ理解できてきたのではないかと思われる。

### イ 課題

“自分の思い”を、その場にふさわしい言葉や行動で表現する部分については、まだ弱さがある。相手の立場や心情に応じた対応ができにくいことから、社会的認知能力や判断力を高める指導が、今後も必要である。